

東伊豆アドベンチャーラリー2015

カップルカテゴリー 優勝者チームコメント

ぐっちーず 田口 真由美さん

マラソンを始めて数年が経過。トレランや登山、ロゲイニングも始めた。走ることを通じて少しずつ広がって行く世界が楽しい。アドベンチャーレースにも興味は募っていたが、複合種目競技に出場するにはまだまだ経験不足。そんな時にこの「東伊豆アドベンチャーラリー」を見つけた。トレッキング、オリエンテーリング、チームチャレンジ…道具は不要で、走ればいい。そして、会場は昨年 OMM が開催された場所。前日にテント泊もできると聞き、今年目標レースの練習にもピッタリ。参加資格は「健康な5歳以上の方ならどなたでも」とあり、早速参加を決めた。オリエンテーリングは出発直前までコースは分からない。今回の会場となる細野高原はススキの名所だとか。伊豆には何度か出かけているが、今回のレースで初めてその存在を知った。そして、新しい楽しみをまた見つけてしまった。

レースの前日には、足慣らしに日本百名山の一つである天城山に登頂。ちょうど紅葉のピークシーズンだったことから、落ち葉のトレイルは真っ赤に染まっていた。山頂からは細野高原の彼方に稲取の港が見下ろせる。緩やかなアップダウンをジョギングペースで一周した。下山後は海鮮づくしのランチと温泉を満喫。今回の宿泊地は受付会場のすぐそばのキャンプ場。駐車場からすぐ近くの芝生のフィールドで、トイレや水場も綺麗で気持ちがいい。早速テントを広げ、満天の星空に身を委ねた。

いよいよレースが始まる。会場へ向かう坂道を登って行くと、目の前には広々と続く果てしない丘陵が開け、一面にススキがきらきらと輝いている。朝の澄んだ空気を一杯に吸い込みながら、受付に向かった。今回のゼッケンは「1番」。この番号に恥じないレースにしなければ…コース地図を受け取り戦略会議にとりかかる。今回は全部で10カ所のチェックポイント。それぞれの場所で様々な課題がまっている。

コースをまわり始めて、すぐにかかなりの過酷さに苦笑する。参加資格からは想像ができない…さすがアドベンチャー！早速自分の背丈を越えるススキの中に突入した。コンパスを使った直進法を試みるが、フワフワと舞う穂先がのどに絡み付き咳き込んで涙が止まらない。やっと見つけたポイントはクイズ付き。答えをつぶやきながら次のポイントへ移動する。一つ一つのポイントの距離はさほど離れていないが、当然、道沿いになんて設置されていない。次は藪の中の急登の末、体力チャレンジポイントに到着。ここには大好きなスラックラインが待っていた。しかし、前日に寝違えてしまったらしく、私は今朝から首が回らなくなっていたため、相方にチャレンジをお願いすることにした。首の痛みはかなりきつく、顔を上に向けることができない。

山の上のポイントを探す、進行方向を決めるために周囲を見回す…当たり前のことが全くできず、走り続けるのでいっぱいだった。

高原の奥に足を進めると、湿原があったり、茨の丘があったり、沢登りがあったり…全く気の抜けないコースをひた走る。チャレンジポイントにはスタッフが待機しているはず！とポイントが近づくと気配を探すが、スタッフは保護色のウェアを着て、静かに周囲の環境に身を委ねているためなかなか見つからない。地図を握りしめなが

ら、同じ場所を何度も行き来してしまっただ。今回は全部のポイントを制覇するつもりで挑んだが、ここで心が折れてしまう。残り時間が気になり始め、気持ちは焦るばかり。そして、いつものようにケンカ。今日は首の痛みのため、言い合いをする元気もなく、足下だけを見つめながらひたすら山を登って行った。やっと道にでると他の参加者がたくさんいて、ホットする。地図で見ればスタートから一番遠い地点に来ていた。そう、後は戻るだけ。最後の山頂を目指した。風力発電用の大きな風車がそびえ立つ山麓を駆け上って行く。前方には伊豆大島が、左手には天城山が見えている。今日走り回った細野高原を見下ろしながら、大声ポイントに着いた。

観光客で賑わう遊歩道を下る。通過中にとれるポイントがあったが、まだ、最後のチャレンジにビーチフラッグを残していた。下りルートの混雑の可能性とチャレンジ種目で高得点を狙う為にはゴールまでの時間の余裕が必須。既に1ポイント落としているので、ここで諦めることは総合点の不足につながる。気持ちを切り替えて少しでも早くゴールし時間でポイントを稼ぐ作戦をとることにした。結果的にはこれは正しい判断であったが、走行中に決断するにはなかなか勇気がいることである。坂道は飛ばしすぎて道迷いをしてしまう。考え事をしすぎると曲がり角を見失う。ギリギリの葛藤を繰り返すことが苦しくもあり、このレースの最大の楽しみでもあるのかもしれない。時計をちらっと見た後はススキの林道を駆け下りる。最後は二人で並んで笑顔でゴール。コース内を走りきれた満足感と制限時間に間に合った安堵感。順位は最後のランナーがゴールするまで分からない。ポイントにたどり着いた後に待っているチャレンジはまだ続く。時間はちょうどお昼時。地元産の金目鯛のみそ汁をいただきながら、キャンプ飯でお腹を満たした。デザートにいただいたみかんがとても美味しかった。海をみながらこげるロープのブランコで遊んだり、お祭りのイベントのもちまきに参加したり、レース以外にも高原を楽しく過ごす時間がありこれがとても良かった。

いよいよ表彰式が始まる。机の上には本日の賞品、東伊豆町の特産品がずらりと並んでいる。入賞者が次々に発表されていくが、その得点は、自己集計の結果よりもまだ低い。もしやと期待が高まる中、一番最後に我がチーム名が呼ばれた。

カテゴリーでも総合でも、ゼッケンナンバー通りの1番の得点での優勝だった。絶景のコースを堪能しながら完走できたこと、その結果がしっかり残せたことがとても嬉しかった。アドベンチャーレースでは、チームの総合力が問われる。地図読みや走路どりの作戦はもとより、チャレンジポイントではメンバーが協力し合わなければ得点の獲得ができない。走力だけではなく、知恵と勇気と信頼が試される。だからペアで勝ち取ったこの結果は私たちにとって大変貴重な体験となった。一番大きな箱を二つもいただき、浮かれた二人がザックを忘れて帰路に着いたことはここだけの秘密である。

ファミリーカテゴリー 参加者チームコメント

ぱくぱくおにぎり隊 金入 有紀子さん

独身時代にハマっていたアドベンチャーレース。

出産を機にすっかりご無沙汰となってしまう、いつも指をくわえて参戦ぶりを眺めていたんですが、今回、子どもと参加できる！ということで迷わずエントリーしました。

娘はギリギリ5歳。月一で山登りをしたり、畑で遊んだりしているものの
本当は女の子的な遊びが大好きな時期。

娘には「スタンプ集めだよ～」と曖昧な説明しかせず、そういう私もレースに出たのは6、7年前で地図は全然読めない。。。
と不安要素いっぱいでしたが、アドベンチャーレース特有の高揚感をもう一度味わいたく参戦しました。

案の定、地図が読めず、やたらアドベンチャーなルートを選んで時間も体力も余分に使ってしまいましたが、それでもやはりとても楽しく、思い出に残る一日になりました。

またこのラリーがないと来ることがなかったであろう伊豆稲取町にも出会えて良かったです。

その土地の自然と思う存分遊べ、同じような志向の仲間と出会え、心身ともに鍛えられる
アドベンチャーレース(ラリー)は改めて素敵なものだなと実感しました。

こんなレースに子どもの時から参加できるなんていいよね～って私は思うのですが、子供本人は・・・？笑
一番記憶に残ったのは、ラリー終了後の餅まき(お菓子まき)だったみたいですが(苦笑)、それでも母娘二人にとってとってもいい体験となりました。

来年はもちろん、ぜひ親子大会がどんどん増えて行って欲しいと強く切望します！
次回までには地図読みを勉強して、レベルアップする目標もできました。
今回初参戦したファミリーもとても楽しかったみたいなので、もっといろんな人にレース(ラリー)の面白さが
伝わればーと思います。

最後に、このような素敵な場を作ってくださった
エクストレモの皆さん、ボランティアスタッフのみなさんに感謝いたします。
ありがとうございました！